

東京大学での所属学部/研究科(教育部)・学年(プログラム開始時): 経済学部/経営学科・4年

参加プログラム: 派遣先大学: 国立台湾大学

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体

⑤.民間企業(業界: 総合商社) 6.起業 7.その他()

派遣先大学の概要

旧帝国大学の一つ台北帝国大学を前身とする、台湾随一の国立名門校。1945年に設立され、6つのキャンパス、11学部、54学科を持つ。学生数は3万人以上と台湾で一番大きな国立大学である。男女比率は約6:4、留学生比率は7%程である。

留学した動機

祖父が台湾出身であり、自分のルーツである台湾に対する理解を深めたいと考えたから。また将来ビジネスパートナーとなりうる東アジア、台湾の学生がどのように日本や日本のビジネスについて学び理解しているのかを肌で感じたいと思ったから。

留学の時期など

- ①留学前の本学での修学状況: 西暦[2014]年 学部[4]年の[夏]学期まで履修
- ②留学中の学籍: 留学
- ③留学期間: 2014年9月 ~ 2015年1月 学部[4]年時に出発
- ④留学後の授業履修: 卒業予定
- ⑤就職活動の時期: 西暦[2014]年 学部4年の4月頃に行った
- ⑥本学での単位数: 留学前の取得単位[経済学部 91]単位
留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位[2]単位
留学後の取得(予定)単位[]単位
- ⑦入学・卒業/修了(予定)時期: 西暦[2011]年 [4]月入学 西暦[2015]年 [3]月卒業
- ⑧本学入学から卒業/修了までの期間: [4]年[]ヶ月間
- ⑨留学時期を決めた理由:
就職後、卒業単位を取得し終えた最後の一学期を有効に使いたいと考えたため。

留学の準備

①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

オンラインでの登録が1月から~2月頃に行われた。英文でのモチベーションレターやその他必要書類がいくつかあるので、早めの準備をおすすめする。健康診断に関する書類提出に関してはオンラインでも提出可能だが、入寮時に直接提出することもできた。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

事前にオンラインでビザを申請し、指定フォーマットにそって基本情報を入力する。その後、入力したファイルを印刷し、(東京都在住の場合は)台北代表処に顔写真とともに提出する。提出後、ビザは早ければその日のうちに受け取ることができ、遅くとも2、3日程度しか要さない。米国ビザを申請した経験があるが、台湾ビザ申請の方が圧倒的に楽である。ビザの種類についてだが、6ヶ月を超えない留学の場合は Visitor ビザ、6ヶ月を超える留学の場合は Resident ビザの申請となる。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

大学内の健康診断を利用し、必要検査項目を検査してもらった。1週間程で検査結果を受け取れる。その他、市販の風邪薬や目薬等を購入した。予防接種は特に受けていない。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

東京海上日動火災保険株式会社 留学プラン

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

留学届け提出、帰国後に単位変換申請、卒業見込み届け提出等

留学開始の約2ヶ月前に経済学部の教務係に留学届けの書類を提出。帰国後にシラバスのコピー及び成績証明書をもって単位変換申請を行い、また同時に卒業見込み届けを提出した。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

未習であった中国語の勉強をするため、夏休み期間の一ヶ月間中国語会話教室に通った。(但し台湾大学での履修授業は英語で行われる上、中国語が目的の留学では無いため補助程度に考えて学習した。)

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

持ち物においては、ほとんどの物が現地で調達出来るため、特別お勧めする物はないが、事前にその国の政治状況や文化、歴史についての知識をインプットしておく、現地での生活における発見や理解が深まりやすいように感じた。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったものに●をつけてください。

- Economic Development in East Asia (2h)
- Japanese Business (3h)
- Exploring Taiwan: Film and Social Culture in Taiwan (2h)
- General Chinese Language Course (1) (3h × 2)

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

2時間授業は主に講義中心。3時間授業の多くは、2時間が講義形式、1時間がグループワークやディスカッションであった。毎週の読書課題に加え、中間、期末テスト、プレゼンテーションなど授業内容は盛りだくさんであり、主体的な授業参加をしやすい授業が多いため、授業内容の理解が深まりやすいように感じた。またグループワークを通じてクラス内で学生同士が仲良く慣れるメリットもあり、友人と協力して学習を進めることができた。

③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など

授業履修の際は6科目履修したが、一つ一つの科目理解や習熟度を高める為に、4科目に絞って学習を進めた。そのため、比較的余裕をもって学習することが出来た。

④学習・研究面でのアドバイス

あまり多くのことに手を伸ばすよりは、留学の目的を明確にし、その目的を達成できる時間配分や科目選択をすることをお勧めする。目標なしで授業を受けていたのでは、最初こそ新鮮さを感じる事が出来るが、その後の成長が見込めない。

⑤語学面での苦勞・アドバイス等

英語で行われる授業の中では、日本語のように聞き取れない場合がある。分からないことを貯めておくことはストレスにもなりうるので、積極的に先生に質問することを勧める。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

宿泊先: 国立台湾大学 BOT 水源寮

家賃: 320USD/月

宿舎の様子: 比較的新しく、個室もシンプルだが広くきれい。洗濯機、乾燥機の数も多く、洗濯物を干す場所も用意されている。ロビーやラウンジでは多くの留学生や現地生との交流が可能。

見つけた方法: 留学申請の段階で寮・部屋タイプの希望を出し、その後8月頃に通知が来る。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

気候: 9月から11月近くまでは30度前後の日々が続く。紫外線が強いため日焼け止めは必須。11月からはやや気温が下がるものの25度前後で日本に比べたらかなり暖かい。12月1月は台湾唯一の冬と言われ、20度を下回り、しとしと雨のすっきりしない天気が続く。ここで重要なのは台湾は湿気がかなり強いので冬は気温以上に寒く感じる。ダウンジャケットやコート、マフラーなどがあると良い。また多くの建物に暖房が設置されていないことも注意した方がよい。寮にも暖房はないため重ね着をして暖をとっていた。

大学周辺の様子: 大学のまわりは学生街となっており、安く食べれる飲食店が非常に多い。またスーパーや生活雑貨店、コンビニエンスストアなども揃っており生活面に困ることはない。

交通機関: MRT と呼ばれる地下鉄の公館駅が最寄りの駅である。台北市はコンパクトな都市であり交通機関も整備されているので、MRT を使えば観光も容易にできる。また公館にはバスも通っていたが、公館からバスを利用したことは無かった。

食事: 寮・大学周辺の飲食店が充実している上、台湾料理は一食平均70元程度と割安であったため、外食を中心とした。台湾料理だけではなく、多国籍のレストランが揃っているため、食事に飽きることはない。(但し、洋食や日本食は3倍程の値段である。)また、自分の寮の部屋はキッチン付きであったため、週に1、2度自炊も行った。

お金の管理:台湾到着時に10万円程度を台湾ドルに替え、その後はcitibankのBanking Cardで引き出していた。また、必要に応じてクレジットカードも使った。自分の場合、大学周辺にはcitibankが無く、違う駅に出かけなければならなかったということ以外に特に問題は無かったが、他の留学生の友人は送金がうまく行かない等の問題があったので、念入りに準備しておくことをお勧めする。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

留学先の治安: 学生街であるため治安は非常に良い。(ただし、自転車は鍵をしても盗まれることがある。)

医療機関の事情: キャンパス内に学生向けの診療機関がある。

心身の健康管理で気をつけたこと: 少人数で食べる台湾料理では、野菜があまり含まれていないので、意識的にサラダを買ったり、ビタミン剤を飲むなどして健康管理を行った。

④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

・毎月の生活費とその内訳

航空賃: 航空会社と時期によるが往復2万~5万円程度。

授業料: 東京大学授業料分

教科書代: 授業は授業中に配られるレジュメが中心であったため、教科書代はかからなかった。中国語の授業はテキストの購入が必須で約700台湾ドル(2500円程度)であった。また参考書は図書館に揃っているが、購入すると500~1000台湾ドルである。

家賃: 月額320USD(1人部屋トイレバス付き、共同キッチンスペース有)

食費: 1日平均250台湾ドル(900円程度)。単純計算で27000円/月

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

受給せず。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

スポーツ: 国立台湾大学には大学全体のスポーツチームの他に、学部毎にスポーツチームがあり、学部対抗のトーナメントが行われている。自分は電機工学の硬式野球のチームに所属した。

文化活動: 書道

週末の過ごし方: 授業の課題、野球、その他スポーツ、観光、旅行

派遣先大学の環境について

①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

留学生一人に対し、台湾大学の学生が一人担当となり、大学生生活のサポートをしてくれる。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

図書館: 図書館は設備が充実しており、24時間使用可能な自習室もある。

スポーツ施設: ジムやプール等の設備も充実しており一日券から年間パスまで多様な料金設定で利用できる。またテニスコート、陸上トラック、野球場なども一般開放しており、道具の貸し出しも行っている。

食堂: 学内の食堂はキャンパス内に数カ所存在し、値段も安い。ただし、キャンパス外の飲食店が充実していたため授業の合間等、時間の無いときに学内食堂を利用していた。

PC環境: キャンパス内の建物ではWi-Fiが使用できるが、教室から離れると接続環境が悪化する。

留学と就職活動について

①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど

留学前に就職活動を終えたため、就職活動の結果に直接的な影響はあまり無いと考えられるが、履歴書等に留学予定という旨は記入したので、国際志向の強さや積極性、計画性、行動力などは少なからず示せたのかと思う。ただし、留学手続きは就職活動と並行して行わなければならないものもあり、その点はデメリットであると言える。

②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響

留学前に就職活動

③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)

就職活動を終えて留学したため、自分は特に何もしていないが、現地で留学生向け就職活動セミナーなども行われているため、就活生だからといって心配する必要は無い。

④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください

1.研究職 2.専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:) 3.公的機関(機関名:)

4.非営利団体(団体名又は分野:) 5.民間企業(企業名又は業界: 三菱商事・総合商社)

6.起業(分野:) 7.その他()

留学を振り返って

①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

語学力や国際的な相互理解を深められるのはもちろんのこと。

寮生活を通じた自己管理能力。不慣れな環境、集団に順応する適応能力。新しいことに積極的に挑戦するチャレンジ精神がおおいに育まれたように感じた。

②留学後の予定

3月に大学を卒業し、4月から総合商社に入社予定。

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

悩んでいるなら積極的にチャレンジすることをお勧めします。日本では得られないかけがえのない出会い、慣れない環境だからこその苦悩、それを超えたときに初めて得られる成長が待っています。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。